

開設分野	西洋哲学
------	------

科目点	
-----	--

AO入試【総合評価方式】Ⅲ型 総合問題解答例

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問

そして、ある現実の事物が、それによって、その事物に固有な類または種において（／の中で）構成される、そのものが、その現実の事物が何であるかを表現する定義によって意味表示されるものなのであるから、時として哲学者たちは、「本質」という言葉を表すために（／の代わりに）「何性」という言葉を使うのである。これは、哲学者アリストテレスが、しばしば、あるものがもともと何であったか（／あったはずであるか）と呼ぶもの、すなわち、それによって、あるものが、今（／現に）そうであるものである、ということ（／性質）が、そのあるものに属するような、そういうものである。

それはまた、形相（けいそう／形式）とも呼ばれる。その場合、「形相」という言葉は、アヴィセンナが、自分の（／彼の）『形而上学』第2巻で言っているように、各々の現実の事物を完全に規定（／限定）するものを意味している。（／それはまた、アヴィセンナが、自分の（／彼の）『形而上学』第2巻で言っているように、各々の現実の事物を完全に規定（／限定）するものという意味で、形相（けいそう／形式）とも呼ばれる。）

解答例

I

<解答例> 人類はものの見方への執着のために、非常に苦しんでいる。「もしこの教えに従わなければ、お前の首を切り落とすぞ。」真理の名のもとに、私たちは互いに殺しあっている。世界は、そうした状況にはまり込んでいる。マルクス主義が人間の精神の最高の所産であり、それに比肩するものはないと、いまだに考えている人々がいる。他の者たちは、マルクス主義は狂気の沙汰であり、マルクス主義の人々を壊滅しなければならないと考えている。私たちは、こうした状況に巻き込まれている。

仏陀の最も基本的な教えの一つは、生命は尊いということだ。平和は、私たちが狂信から自由であるときにのみ、達成される。あなたがこの瞑想の訓練を実践すればするほど、あなたはより深く、真実の中へと参入し、仏陀の教えを理解することになるだろう。

II

<解答例> ニーチェにおけるニヒリズムという言葉の用法の独自性の一つ目は、キリスト教やプラトン主義などの超越的価値を信じる立場を「ニヒリズム」と呼んでいる点にある。伝統的にニヒリズムという言葉は、キリスト教に対立するような立場、すなわち神などの超越的価値を信じない立場を指すのに用いられていた。しかし、ニーチェによれば、むしろキリスト教やプラトン主義は、この現実の生、地上を超越したところに、本来は「虚無」に過ぎない「神」などの超越的存在を設定し、そちらに価値の源泉を求めることによって、むしろこの現実の生を貶めてしまっている。その意味で、キリスト教やプラトン主義は、最も根の深いニヒリズムなのである。

さらに、ニーチェにおけるニヒリズムという言葉の用法の独自性の二つ目は、ニーチェ自身の「生の肯定」の哲学を、「徹底的」「最も極端な」などという限定付ではあるが、「ニヒリズム」と呼んでいる点にある。伝統的にニヒリズムという言葉は、否定的な言葉、非難の言葉として用いられてきた。しかし、もはや超越的な存在に価値を求めないこと、すなわちニヒリズムを徹底していくことによって、むしろ本来の価値の源泉である「力への意志」へと還っていき、新たな価値の創造、生の肯定が可能になるのである。その意味において、ニヒリズムは、ニーチェ自身の立場を示す肯定的な言葉でもあるのだ。

III

<出題の意図>

- ① 現代社会において「人生の意味」を獲得する困難さを意識しているか。
- ② 「超人」や「永劫回帰」など、ニーチェによるニヒリズム克服の試みを理解し、言及しているか。
- ③ 自分なりの主張が明確にできているか。
- ④ 自分の主張に対して説得力のある根拠を示すことができているか。

出題の意図

第一問

問1 訓読の基本についての理解を問う問題である。以下に解答例を示す。

【訳本①】

使_レ我_ヲ介_シ然_{トシ}有_テ知_リ行_フ於_テ大_道唯_ニ施_ス是_レ畏_ル。大_道ハ甚_ク夷_ク而_{シテ}民_ハ好_ム徑_ヲ。

【訳本②】

使_シ我_ヲ介_シ然_{トシ}有_テ知_リ行_フ於_テ大_道唯_ク施_ス是_レ畏_ル。大_道ハ甚_ク夷_ク而_{シテ}民_ハ好_ム徑_ヲ。

問2 ゼミナールの内容を理解しているかを問う問題である。解答においては、①【訳本①】が「施」字を如字すなわちその字の一般的な意味で解するのに対し、【訳本②】が仮借字として解していることが明らかにされていること、②「施」字が出土資料で「他」字等に記されていることがふまえられていることが求められる。なお、より妥当な解釈として【訳本①】【訳本②】のいずれを選択した場合でも、解答において説得力のある議論が展開できていればともに正解とする。

問3 ゼミナールの内容を理解し、発展的に思考する力を問う問題である。解答においては、仮借の存在に起因する読解の困難さに触れていることが求められる。

第二問

問1 ゼミナールの内容を理解しているかを問う問題である。解答においては、「人」字が無い場合には「人之所畏」が「不可不畏」の目的語と解され得るのに対し、「人」字が有る場合には「人之所畏」が「不可不畏」の主語と解されなければならないことが明らかにされていることが求められる。

問2 ゼミナールの内容を理解しているかを問う問題である。解答においては、冒頭の一句の所屬の問題、分章の問題について触れていることが求められる。

第三問

ゼミナールの内容を理解し、発展的に思考する力を問う問題である。解答においては、①楚簡本から帛書本に至る間に文章の付加が行われたこと、②帛書本から北大本に至る間に『老子』の書名が現れたこと、③今本の章序が北大本の段階で現れたこと、④今本に至る過程で「道経」「徳経」の順序が入れ替わったことが記されていることが求められる。

第四問

ゼミナールの内容を理解し、発展的に思考する力を問う問題である。解答においては、古い時代の写本が現れることにより、今本の問題（誤字、脱字、分章の誤りなど）が明らかにされるのみならず、テキストの成立過程についてより正確な推定が可能になることなど、ゼミナールで触れた内容をふまえて自分の考えが論理的な文章で記されていることが求められる。

解答例又は出題の意図等
平成31(2019)年度 広島大学光り輝き入試 AO入試 (総合評価方式) 文学部

解答例 (出題の意図)

- ・ 明治維新における封建的特権の廃止が理解できており、具体的に例示されているか
- ・ 封建的制度の改革、撤廃が比較的短期間で行われたことが指摘されているか。
- ・ 士族反乱等の諸事件が明治維新の過程の中で説明され、本講義で述べられたことに関連づけて自分の評価を述べているか。
- ・ 明治維新の運動の根底に「公論衆議」「公議輿論」という理念があったことが述べられ、それに関連づけて具体例が述べられているか。
- ・ 近世武士の持つエートスがその発生に由来していることを的確に説明しているか。
- ・ 全体的に本講義のみならず高等学校で得られた知見がちりばめられているか。

以上の6つの観点を踏まえて論理的に論述されているかを問う。

解答例又は出題の意図等
平成31(2019)年度 広島大学光り輝き入試 A0入試 (総合評価方式) 文学部

【解答例】

〔Ⅰ〕

モンゴル帝国の統治者たちの多くは、シャマニズムを信仰していたが、その広大な版図においては、キリスト教・仏教・道教・儒教・イスラーム・マニ教など多様な宗教が信仰されていた。そして、モンゴル帝国の統治者たちは、他の宗教に対しても十分に理解を示し、宗教の多様性を尊重する傾向にあった。もちろん、特定の宗教が、モンゴル帝国に対して敵対的であったり、モンゴルの慣習に従わなかったりする場合には、抑圧的な政策がとられることもあった。ただし、モンゴル帝国の宗教政策は比較的寛容だったといえる。

その前提として、以下の二つの背景を挙げることができる。第一に、モンゴル帝国の君主たちは、他の宗教の教義を理解しながらも、それぞれの宗教がシャマニズムの最高神である天を崇拜していたと解釈していた。これによって、宗教の違いによるあつれきを意図的に避けていたのである。

第二に、モンゴル帝国が広大な版図を円滑に統治するためには、各宗教との協力関係を構築することが不可欠であった。モンゴル帝国は、様々な宗教教団から様々な奉仕・貢献を得る見返りとして、様々な保護や特権を与えていた。すなわち、帝国の統治者は、宗教教団から心の救済や各種の知識・技術・情報を入手するとともに、彼らを通じて社会の安定や民衆の統制を実現していた。他方、宗教教団は信仰・布教の自由を保障され、国家からの経済的援助や税役免除の特権を獲得していた。

〔Ⅱ〕

モンゴル帝国の研究は、それゆえに困難さを有する。言語の問題を考えてみよ。歴史家に利用可能な史料は、モンゴル語、中国語、ペルシア語、アラビア語、テュルク語、日本語、ロシア語、アルメニア語、グルジア語、ラテン語や他の諸言語で書かれている。誰一人として、それらのうちごく一部より多くを原文で読むことができるようになる望みはない。それから文化上の困難さがある。たとえ私たちがこれら全ての言語で書かれた史料を読めたとしても、私たちは正確にそれらを理解したと確信できるだろうか。中世の中国、イスラーム、ヨーロッパ、ステップの人々の社会はみな相互に異なっていた。彼らの歴史の著作物は、異なる前提と異なる慣例を有しており、全く異なる思考様式がその根底にあるのだ。

開設分野	西洋史学
------	------

科目点	
-----	--

AO入試【総合評価方式】Ⅲ型 総合問題解答用紙

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問 I

まず線文字 B とは、ミノア文字の一つである。ミノア文字は紀元前 2000-1000 年の間、クレタ島を中心としたエーゲ海で使われていた諸文字の総称である。これらの文字は粘土板に書かれ、王宮の内部のみで使われたものであり、民衆からは隔絶していた。後のアルファベットとは系統が全く異なるのも特徴である。発見者はアーサー・エヴァンズであり、彼はミノア文明に因んで、ミノア文字と名付けた。ミノア文字には 5 種類、①ミノア象形文字、②フェイストスの円盤文字、③ミノア線文字 A、④ミノア線文字 B、そして⑤ミノア線文字 C がある。これらの文字は、線文字 C を除いて、音節文字と表意文字の組み合わせである。どの文字も 80 から 90 以上の音節文字を持っている。これらの文字の中で解読されているのは線文字 B だけである。これは線文字 A から発展してできたものであるが、その言語は古いギリシア語であった。

線文字 B を解読したのは、マイケル・ヴェントリスである。彼は少年の頃、アーサー・エヴァンズの講演を聴き、いつしかその未解読の文字を解読してやるという夢を抱いた。彼は言語学者にはならず、建築家になったが、コツコツと研究し、論文を発表した。当時、線文字 B 文書はクレタのクノッソスから最も多く発見され、その他、ギリシア本土のテーバイ、ミケーネ、ティリンス、ピュロスなどからも発見されていたが、その数はクレタと比して少なかった。この状況から大抵の学者は、線文字 B はクレタの言語を記したものであり、ギリシア語は念頭になかった。またテセウス伝説に象徴されるように、ギリシアはクレタに支配されていたという先入観が学者たちを捉えていた。しかしヴェントリスが皆の予想に反して、最終的にギリシア語を当てはめて考えた時、解読の扉が開かれた。彼は言語学者のチャドウィックに相談し、彼の仮説の正しさが証明されると、共同で研究成果を出版した。忘れられていたミケーネ文明が蘇ったのは、1950 年代のことである。

線文字 B は多くの音節文字を含むので、日本語のアイウエオよりも複雑な仮名文字を有していたと言える。また漢字のような表意文字もあったので、まさに漢字仮名交じりの文章であった。その意味において、日本人には馴染み深いものかもしれない。実際の線文字 B の実例としてあるピュロス文書を読んでみよう。これはピュロスを 16 の行政区に分け、それぞれの区長と副区長に決まった量の青銅を拠出させるための割り当てリストである。冒頭には「神殿にある青銅を矢尻と穂先用に」という使用目的が書かれている。この背景には、どうやら軍事的緊張状態があるようである。「海の民」の襲来に備えた命令書であるとも考えられている。

冒頭に述べたように、線文字 B は王宮の内部のみに使用された文字であった。その文書は主に、農作物や家畜の納入・分配の記録、武器や兵員の配置、農地の登録など、実用的な記録のみであり、手紙や文学といったものはない。粘土板は本来は日干しであり、一時的なメモに使われたものであり、清書された後には廃棄されるはずのものであったが、王宮が火災にあったためにたまたま火が入り、硬くなって 3000 年も残ったのである。つまり線文字 B の記録は、王宮最後の日の記録であり、時系列的な記録ではない。その意味で史料的な限界がある。王宮を襲ったのは「海の民」だったのかも知れない。王宮とともに線文字 B も消滅したのである。

解答例又は出題の意図等
平成31(2019)年度 広島大学光り輝き入試 AO入試 (総合評価方式) 文学部

開設分野	西洋史学
------	------

AO入試【総合評価方式】Ⅲ型 総合問題解答用紙

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問Ⅱ

(1)

ミケーネ文明崩壊論に関して、初期の理論は単一原因論として一括りにできる。一方、新しい諸説はいくつかの原因の複合原因論を唱える傾向がある。

(2)

ヘロドトスは紀元前5世紀の人で、ギリシア語で『歴史』を書いた。生まれはエーゲ海東岸のハリカルナソスという都市で、当地の名門の出であった。『歴史』は、紀元前5世紀に起こったペルシア戦争の歴史を縦軸に、同時にペルシア軍の進軍に合わせて、各地の歴史、伝承、風土、宗教、生活などを横軸にして編まれたもので、古代世界の情報の宝庫である。「歴史」ヒストリアの語源は本来「探求」という意味であり、それ故にキケロはヘロドトスを「歴史の父」と評した。ヘロドトスはアテナイ民主政の全盛期にアテナイに移住し、ペリクレスなど当時の知識人と親交を結んだ。彼の『歴史』は、当時のアテナイ帝国支配を歴史的に正当化するという目的をもって、主に民衆向けに書かれた平易な読み物であり、本としても読まれたが、リサイタルの場で朗読もされた。ヘロドトスは晩年、アテナイの植民都市トゥリオイに移住したが、その後については不明である。

(3)

伝説によれば、ヘラクレスの子孫は100年間、ギリシアから追放されていたが、青銅器時代末期にドーリス人と呼ばれる部族を率いて帰還し、特にペロポネソスにおけるいくつかの領域を征服した。ドーリス人の起源は不明である。彼らはミケーネ世界の辺縁、おそらく北西ギリシアに住むギリシア語を話す人々だったと信じられている。もっとも、より近年の仮説は、まことしやかに彼らをミケーネ世界それ自体の内側に潜在していた人口要素と見なしているが。

開設分野	地理学
------	-----

科目点	
-----	--

AO入試【総合評価方式】Ⅲ型 総合問題解答用紙

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問 I

(1)

地震時の断層の食いちがいは一瞬のうちに終わるわけではない。断層の食いちがいは震源から始まって断層面に沿って毎秒2km ないし3kmの早さで進行することが多い。岩盤に加わる力が引き続き断層を動かすのに不十分となった場合や、破壊が塑性変形を起こす領域に入った場合、食いちがいはそれ以上広がらない。後で示すように、地震のマグニチュードは断層破壊が生じた全面積に比例する。大多数の地震は規模が小さく、その破壊領域の大きさは、震源の深さよりもずっと小さい。そのため、断層の食いちがいが地表に現れることはない。

しかし、大きく破壊的な地震の場合、地表の食いちがいが起こることが多い。1906年サンフランシスコ地震は、サンアンドレアス断層の長さ400kmの区間に平均4mの断層変位を引き起こした。最大規模の地震の場合、1000km以上も断層が伸び、断層のずれは20mを越えることもある。一般的に、断層破壊領域が長いほど断層のずれも大きくなる。

(2)

活断層とは最近数万年から二百数十万年間の新しい地質時代に繰り返し大地震を起こして、将来も大地震を発生させると予想される断層である。大地震によって大きな断層面に沿う食いちがいが地表まで達すると、地表の地形や表層の地層が食いちがう。同じ場所で大地震が繰り返し発生すると、そのたびに食いちがいが繰り返されて累積する。その結果、地形や地質から活動の繰り返しが認められるようになる。

(3)

活断層を認識することによって、そこに大地震の発生の可能性があることがただちに解る。活断層の長さや1回の地震による食いちがい量を求めるとその大地震の規模を推定することができる。さらに活断層の地形や地質を調査し、その年代値を求めて過去の大地震発生時期を特定することができる。大地震の繰り返し発生間隔と最新の大地震以降の経過時間をもとに、将来の地震の発生時期を予測することができる。

開設分野	地理学
------	-----

A0入試【総合評価方式】Ⅲ型 総合問題解答用紙

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問 II

(1)

平均発生間隔 117年 標準偏差 21年

$$(137+107+102+147+92)/5 = 117$$

$$((137-117)^2+(107-117)^2+(102-117)^2+(147-117)^2+(92-117)^2)/5 = 450$$

450の平方根は 21.2 開平筆算または $21^2 < 450 < 21.5^2$ より。

(2)

地震を記録する文書は当時の地方官庁や京都あるいは鎌倉の中央官庁で作成されたかもしれないが、その後散逸して保存されていないために、古文書記録が現存していないから。しかし、このような巨大な地震の記録が一切失われてしまうことが考えにくいとすると、実際に地震は起きておらず、紀元14世紀以後の平均的な地震発生間隔の2倍以上の長い間隔で起きていた可能性も否定はできない。

(3)

昭和の地震は近代的な手法を用いて実際に観測されたうえに、地震を経験した人が存命し、新聞記事や公的・私的な記録も多数存在する。安政以前の地震に関して、主要な資料は文書記録(古文書)である。京都や鎌倉など日本の政治の中心で強い地震動があればそこで記録が行われた。地震被害を被った地域からは、被害の状況や救援の要請の文書が地方官庁や中央官庁に報告された。地方に多数存在する寺社においても記録が作られた。しかし、戦国時代やそれ以前の動乱の時期には多くの文書が散逸亡失し、すべての記録が失われた地震もある。その場合、考古遺跡から液状化、断層変位、津波などの痕跡が見つかる考古遺物に基づき発生時期を知ることができる。さらに、考古遺物を含まない地層や地震による地殻変動を記録している地形から地震の発生時期を推定することもできる。この場合地層や地形の年代は、放射性炭素同位体年代測定によって決定されることが多い。

解答例又は出題の意図等
平成31(2019)年度 広島大学光り輝き入試AO入試(総合評価方式) 文学部

開設分野	地理学
------	-----

AO入試【総合評価方式】Ⅲ型 総合問題解答用紙

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問Ⅱ

(4)

最新の南海地震から現在までの経過時間は72年であり、最短の発生間隔の92年の80%近くなっており、いまずぐ発生する可能性もある。また、平均発生間隔117年とその標準偏差21年をもとに正規分布の確率にしたがって地震が起きると考えると、 2σ 区間の発生間隔75~159年、すなわち2011~2105年に起きる確率が95.4%である。このことはいまずぐ発生する可能性が皆無ではないことを示している。しかし、既知の最短の発生間隔と平均的な発生間隔を考えると、南海地震から92年後の2038年以降、117年後の2063年前後に発生する可能性はより高いのではないかと考える。

(5)

(多くの常識的な答えが予想されるので解答は示さない。ただし、リスク管理・リスク分散等経済的損失の軽減への言及があればよりよい。)